

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立第一中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の中で、生徒・保護者のニーズをもっと掘り起こす必要があるとの意見をいただいた。反面、学校のリソースは限られており、業務改善が求められている現状でもある。家庭・学校・地域と連携して新たな教育活動を実施するための基盤づくりが求められる。 本年度はコロナで中断していた対話能力向上のための香魂トークを毎週実施しようとしたが、コロナ以前に取り組んでいた職員も減り、やり方が継承されておらず、以前のように取り組めない現状がある。対話を取り入れた授業実践には、対話スキルや教室の人間関係づくりが必要であるため、再度力を入れていきたい。 学校評価アンケート「第一中学校に入学してよかったですか」で肯定的回答が生徒9.5%、保護者9.4%という高評価をいただいた。家庭のご理解・ご協力や教職員の日頃の対応や指導の成果、そして地域の方の見守りが生かされていると考えられる。これからも丁寧に取組を進めていきたい。
2 学校教育目標	一中 大好き

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に学ぶ魅力ある授業を展開し、学習意欲を高める。 学校生活の中で生徒に活躍の場をもたせ承認する場面を増やし、自己肯定感を高める。 「立腹教育」を柱とした授業規律を確立し、規範意識と自己指導力を高める。 職員が、校務分掌等を通して、積極的に学校運営に参画できるようにする。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 総括評価

(1)共通評価項目			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提案	
●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 全職員による共通理解と共通実践 ●学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に関する取組を、通信などを通じて随時保護者に知らせていく。 唐津の学びスタイルの途中経過と修正を、校内研修を通して適宜行っていく。 単元計画表を各教科で活用する。 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートでの肯定的な評価はそれぞれ90%以上であり、取り組みについては概ね良好であると言える。しかし、本年も本校の学習状況調査の結果は県平均を下回り、学習内容の定着、活用に課題を抱えている。次年度では個別最適な学びと協働的な学びのより一層の充実を図っていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者、教職員の達成率や学校の様子を見ても、授業の改善は進められていると思う。ただ、学習状況評価の結果は、平均を下回っており、課題がある。 	
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒対象に道徳評価アンケートを2学期に行い、肯定的回答が85%以上。 ○学校評価アンケートでいじめ防止・早期対応の取組に関する肯定的回答が生徒85%以上・保護者90%以上。 ○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒75%以上 ○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 内容の精選を行い、各学年の様子や行事等に応じた内容を組み立てる。 学年間で実施内容を揃え、指導案をシェアする。 学期ごとにアンケートを取り、振り返りと定着を行う。 毎学期に職員研修会、毎月生活アンケートを実施し、早期発見対応の充実を図る。 学校行事や生徒会活動、ボランティア活動に参加し、頑張っていた生徒を紹介する場を全校、学年、学級の中に設け、自己肯定感の向上に努める。 進路講演会や職場体験等を自分の将来について具体的に考え、交流する場とする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの「『自分にはいろいろなよいところがある』と思いますか」という項目に対して83%、「『学校や社会のルールを守っている』と思いますか」という項目に対して96%が肯定的な回答をしており、道徳科の内容項目である「社会参画・公共の精神」や「個性の伸長」の指導の充実が図れたと考える。 各学年が行ったアンケートにおいても、同様に自己や他者について、考えを広げ、深めていることがうかがえる肯定的な回答が得られた。来年度もアンケートを実施しながら、指導を充実させていきたい。 学校評価アンケートの「いじめ問題についての早期発見・早期対応」について肯定的な意見が生徒86%、保護者86%という回答であった。保護者に関しては、こまめな連絡や対応を行い、生徒に対しても日々の声掛けや見守り、気軽に相談できる雰囲気作りを行い、前向きな対応を行った成果だと思われる。来年度も小さな変化を見逃さないよう、アンテナを高くして生徒観察を行い、目安箱のような情報収集の取り組みも行っていきたい。 「先生はあなた(子ども)のよいところを認めていると思う」と回答した保護者が89%、生徒が92%であり、非常によい評価を得ている。教職員が常に生徒に寄り添い、きめ細やかな対応や活躍する場を作っていることが要因の一つであると考えられる。 「学校は学校行事や講演会などを通して、生徒に将来の生き方について学ばせていると思う」と回答した保護者は94%であったが、「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒は76%であった。中学生は将来への悩みが大きい時期であり、更なる手立てが必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 一中の卒業生として、生徒・保護者ともに充実感が高いことは誇らしく感じる。今後も支援・指導を継続してほしい。 いじめは発見が難しい。現在の取組を継続し、早期発見に努めてほしい。また、目安箱など、これまでとは異なる情報収集の仕組みも必要ではないか。 中学生のうちから、夢や希望をもてることははずばらしいことだと思う。生徒たちがどのような選択肢があるのかを知る機会として、講演会等が設けられているのはよい。更なる教職員側の生徒への歩み寄りも期待したい。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 	<ul style="list-style-type: none"> ●「メディアの使用について家族で話し合いルールを設けている」と肯定的な回答をした保護者90%以上。 ●「健康に良い食事をしている」について肯定的な回答をした生徒70%以上。 ○学校安全に関する学習後や避難訓練後の感想から、理解の促進や学習の大切さを述べている生徒の割合が90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会の年間の取り組みとして活動していくことで望ましい生活習慣の意識づけを行う。 保健だよりで家庭にも知らせていく。 PTA母親部、生活指導部とも連携して活動する。 水害、火災、台風、大雪などの自然災害のほか、原子力災害など様々な緊急時を想定した危機回避能力を身に付ける安全教育を推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、生徒に対して保健部の活動、保護者に対しては保健だよりを通して、健康的な生活習慣や季節の疾病等についての意識を高める動きをとることができた。また、スマホやゲームの時間が多くなっており、メディアの使用時間が多かった。毎月初めのノーメディアデーの際には、はなまるメールにてアナウンスをして、メディアの利用について呼びかけたが、メディアの使用について家族で話し合いのルールを設けていると肯定的な回答をした家庭は65%にとどまった。他にも、「健康に良い食事ができる」に関連して、アンケートの「毎朝、朝食がとれているか」では、肯定的な回答が生徒、保護者ともに、目標の70%を超えることができた。 「健康に良い食事をしている児童生徒の割合」は81.7%であったが、授業や掲示物によって食事のあり方、大切さについての意識を高めることができた。啓発を続け、食の自己管理能力を育てていきたい。 安全に関する資質・能力の育成について、様々なケースを想定しての避難訓練の実施した。2年生では、保健体育の保健分野で自然災害や危険への対策についての知識などを身に付けることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティスクールの取組を中心として、小・中学校が協働でメディアの使い方について考える日を設定しながら家庭を巻き込んだ啓発は一定の評価がある。一方で、スマホやゲーム等の使い方について、生徒への講座だけでなく、保護者向けの講座も必要ではないか。 朝食については、9割以上の生徒が食べている現状が続くように、その価値を伝えてほしい。 学校安全教育については、近年の社会事象からもわかるように特に注視する必要がある。命に関わる教育や身を守る大切さを考える授業など、継続して取り組んでほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○より適正な部活動のあり方 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○部活動ガイドラインを遵守した計画、運営の完全実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の内容の見直し、校時程の見直し、校務分掌の業務分担の平準化を進める。 「あたりまえ」と考えている業務の見直しを進める。 佐賀県・唐津市の「運動部活動の在り方に関する方針」を遵守した活動時間、休養日の設定を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ICTによる業務改善については一定の効果はあった。しかし、職員の時間外在校時間や年休取得率については、大きな改善は見られなかった。引き続き、業務の見直しと業務分担の平準化を進めていく必要がある。 どの部活動も毎週水曜と土日のどちらかで休養日を設定しながら活動を設定することができている。今後地域やクラブとの関わりが必要になってくることが考えられるため、その点での準備を進めていく必要があるが、現状はなかなか難しい課題となっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校だけではなく社会全体でこの課題には、取組むべきだと考える。また、先生方も一親で、ご自身の子育てでも大切にしてほしい。今後の取り組みとして、運営協議会に市議員を招き、学校の現状を知ってもらうなど考えていく必要がある。 地域移行の動きが進んでいるのが半信半疑である。結局のところ、教員への負担はあまり変わっていないのではないかと感じる。更なる検討や提案が必要と考える。
●特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学級在籍生徒が安心して学習できるという意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学級在籍生徒で、安心して学習できると回答する生徒60パーセント以上 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒に関する情報共有の充実化、支援計画の確認、保護者との細かい連携、授業カリキュラムの丁寧な見直し。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 支援学級は現在少人数のため、比較的安心して過ごすことができていた。環境の変化への対応を苦手とする生徒が多いため、その都度相談や配慮を行うようにしてきており、今後も対応していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教室配置、支援学級独自のカリキュラム等細やかに対応できている。今後も継続して教育的配慮を柱にした取り組みをお願いしたい。

(2)本年度重点的に取り組む職員評価項目			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提案	
○学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○学校・家庭・地域において、主体的に学習活動を行い確かな学力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートにおける「あなたは授業が分かりますか」の問いに対する生徒の肯定的回答が85%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の手引き～保護者用リーフレット～」等を活用し、家庭と連携して家庭学習習慣の定着を図る。 唐津の学びスタイルに沿った研修および授業づくりを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの家庭学習の充実に関する項目では、生徒・保護者どちらも肯定的な評価を頂くことができた。しかし、その割合は、生徒70%で保護者53%と差がある。これは保護者が生徒に対してより一層の家庭学習の充実を願っているからに他ならない。自主学習ノートをはじめ、家庭学習に有用な手段や情報の提供を、研究主任を中心に学校からも継続して働き掛けていくことが求められていると考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は理解していると回答しているが、テストの結果は厳しいものがある。更なる授業力向上等をめざしてほしい。別室登校の生徒に対しては、学校独自で進めている学習支援については子どもたちの評価からも学習意欲等の向上につながった。今後も継続してほしい。
○生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○規範意識の向上と自己管理能力(自主性)の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートで「学校や社会のルールを守っている」と回答した生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 生活心得「初心」を全校生徒、職員に配布し共通理解の下、日々の生活の中で確認しながら指導を全職員で行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの「学校のルールや社会のルールを守っている」と回答した生徒は96%であった。生徒指導部会や職員連絡会で生徒の共通理解を図り、日頃からそれぞれの生徒に応じた細かな対応や指導・声掛けを行ってきた成果だと考えられる。また、一部の生徒の制服の着こなしには課題があるため、家庭との連携がより重要となってくる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 制服の着こなしを見ていると課題があるように感じる。ほとんどの生徒はちゃんとしているのだから、一部の生徒の様子が気になる。一方で、登校時の挨拶や日頃の生活の様子をみていると、落ち着きのある生徒が育ってきていると感じる。
○教職員の学校経営への参画	<ul style="list-style-type: none"> ○校務分掌等を通して、積極的に学校運営に参画する教職員の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校経営に積極的に参画している」と回答した教職員80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 従来通りの取り組みを繰り返すだけでなく、担当する分掌において創意工夫しながら取り組むようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 企画委員会、学年部会でしっかりと共有及び協議を行うため、職員会議の進行に効果的な影響を及ぼしている。一方で、研究推進委員会など年間を通して授業時間割に関わる難しさから実施できないことが多かった。今後の課題として、各委員会のメンバー構成のスリム化が求められる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動の活性化にも取り組んでいただきたい。 地域や保護者のニーズを問う仕組みづくりが必要だと考える。

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取組として、学校行事への生徒たちの真剣な取組と保護者の協力、学校側のはなまる連絡帳による細かな発信、リアルな配信等、保護者や地域への広報に力を入れ、一定の評価を得ることができた。学校運営協議会の中では、生徒・保護者のニーズやよいことだけでなく、気になる点についても掘り起こす必要があるとの意見をいただいた。一方で、学校のリソースは限られており、業務改善が求められている現状でもある。地域の中になる学校という視点で、地域、家庭と学校が連携・分担・協働し教育活動を推進していくことが求められる。 学校評価アンケートによる「学校生活は充実していると思いますか」で生徒の肯定的回答生徒96%、「第一中学校に入学させてよかったと思いますか」で保護者の肯定的回答93%の結果から、学校への期待と信頼を得ていると捉える。一方で、学力定着への不安が生徒、保護者から聞こえる。次年度から唐津市における学力向上研究校として、更なる家庭の理解と協力や地域からの支援、教職員の日頃の対応や指導の成果を求めながら課題への取組に努めていく。
----------------	---